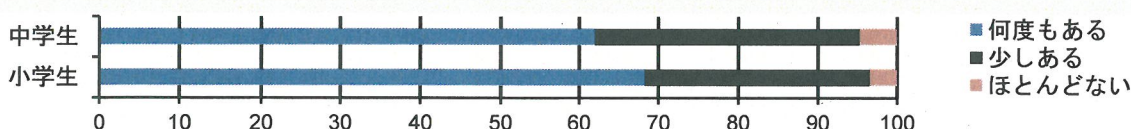


体験活動などに関するアンケート調査結果より

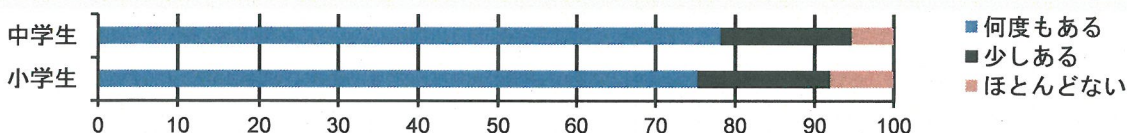
本年度7月に地区内小・中学生の体験活動のデータを得ることにより、平成24年3月に「県社会教育委員の会議」から出されたデータと比較・考察し、地区内の子どもたちの体験活動の実態を把握するために、南薩地区内の小学5年生と中学2年生の全児童生徒を対象に「体験活動などに関するアンケート調査」を実施しました。その結果(%)は次のとおりです。

南薩地区だけのアンケート結果と考察

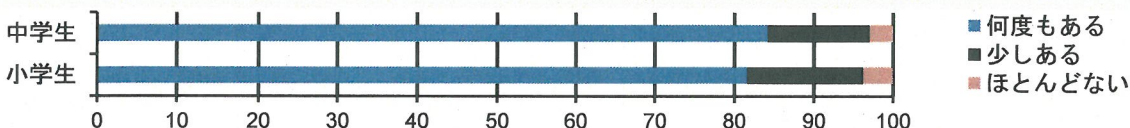
(1) 学校で行う体験活動(田植え、茶摘み、集団宿泊学習など)は、満足感や充実感がある。



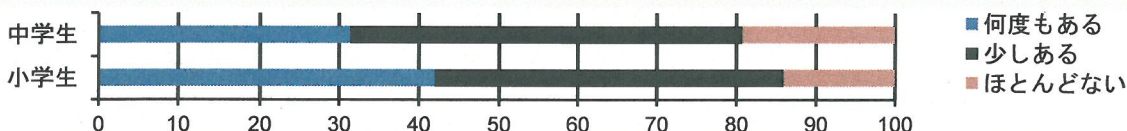
(2) 家庭でコンピュータゲームやテレビゲーム遊びをしたことがある。



(3) 地域行事(六月灯、十五夜、お祭り、鬼火焚きなど)に参加したことがある。



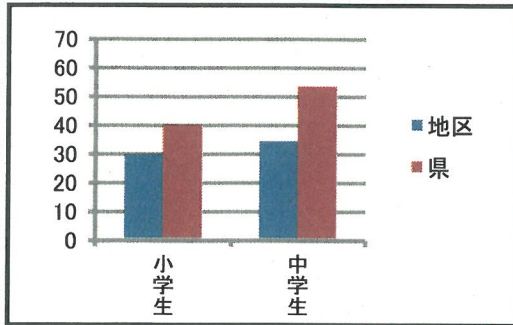
(4) 学校や地域でお年寄りなどから昔遊びを教わったり、触れ合ったりしたことがある。



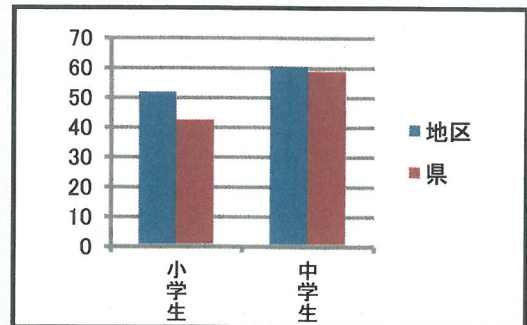
- 「学校で行う体験活動(田植え・茶摘み・集団宿泊学習など)」に地区内の児童・生徒の60%以上の子どもたちが満足感や充実感をもっており、各学校で行われている体験活動が有意義なものになっていると思われます。
- 家庭でコンピュータゲームやテレビゲーム遊びをしたことが「何度もある」と答えた児童・生徒が小・中学生とも70%以上です。特に男子の割合が高い傾向がみられます。
- 地域行事(六月灯・十五夜・お祭り・鬼火焚きなど)に参加したことが「何度もある」と答えた児童・生徒が小・中学生とも80%以上です。これは、本地区では地域の伝統的な行事がまだ多く残っており、地域で大切に継承されてきている現れかと思われれます。
- 学校や地域でお年寄りなどから昔遊びを教わったり、触れ合ったりしたことが「何度もある」と答えた児童・生徒が小学校で42%、中学校で31.4%となっています。地域の活性化や子どもたちの道徳性を培う上でも、高齢者と触れ合う活動は今後も継続していく必要があります。

県と地区のデータ比較と考察

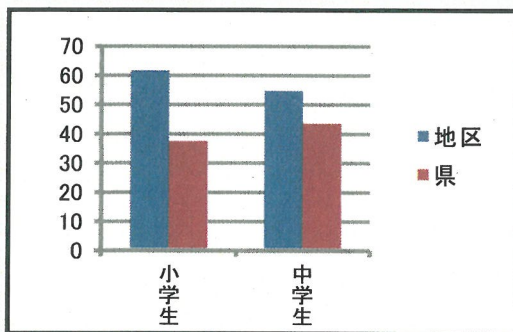
(1) 海や川で泳いだことがある。



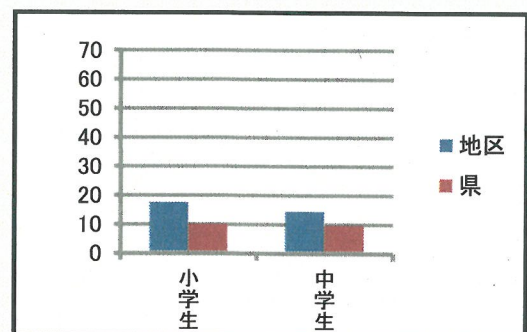
(2) 地域清掃に参加したことがある。



(3) サツマイモ掘りなど畑で作業をしたことがある。



(4) 弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたりしたことがある。



- 「海や川で泳いだことがある」の項目では、小学生が10.4%、中学生が19.0%、県より低くなっています。これは、本地区の小・中学校で川や海での遊泳禁止の指導や周りの自然環境にも関係があると思われます。
- 「地域清掃に参加したことがある」の項目では、小学生が県より5.3%高くなっていますが、中学生は県と差がみられません。このことから、本地区の子どもたちは高学年になればなるほど、地域活動に参加しなくなる傾向があると思われます。
- 「サツマイモ掘りなど畑で作業をしたことがある」の項目では、小学生が24.1%、中学生が11.1%、県より高くなっています。このことから、本地区の児童・生徒は県と比較して農作業等の体験が豊富であると思われます。
- 「弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたりしたことがある」の項目では、小学生が7.5%、中学生が4.7%、県より高くなっています。このことは、本地区の子どもたちは、望ましい道徳性が身につけている子どもの割合が県より多く、好ましい現状にあると思われます。

「体験活動を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自律的行動習慣が身についており、自己肯定感も高い傾向にある」（国立青少年教育振興機構、2010年度「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」という調査の結果があります。この結果からも、子どもたちには様々な体験活動を経験させることが必要だと思われます。

家庭では、子どもに家族の一員としての役割意識をもたせ手伝い等をさせたり、外で遊ばせたりすることが大切です。また、地域や学校では、社会教育関係団体（PTAや老人クラブ等）とも連携を深めながら、子どもの発達段階に応じた体験活動や地域の行事等に参加させることが必要です。